

自在R連続基礎（交差点タイプ）

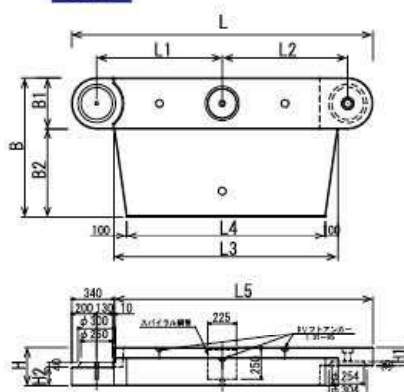
自在R連続基礎（交差点タイプ）の特長

- 基礎断面（幅）を大きくすることで、短延長（5m）での安全確保を実現します。
- 支柱建込穴を補強し、根入250mmで安全を確保します。
- 上下組み合わせ、ボルト連結の容易な施工により、工期短縮を実現します。

施工例



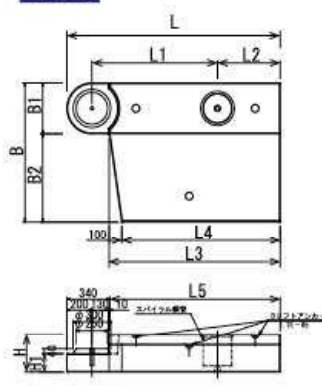
基本



規格	B	B1	B2	H	H1	H2
L=2.0						
L=1.5	1105	400	705	300	145	145
L=1.25						

規格	L	L1	L2	L3	L4	L5	重量 (kg)
L=2.0	2400	1000	1000	1785	1585	2060	1157
L=1.5	1900	750	750	1285	1085	1560	828
L=1.25	1650	625	625	1035	835	1310	662

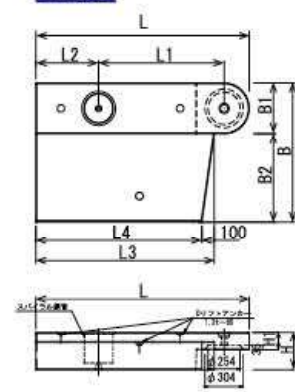
端部A



規格	B	B1	B2	H	H1
L=2.0					
L=1.5	1105	400	705	300	145
L=1.25					

規格	L	L1	L2	L3	L4	L5	重量 (kg)
L=2.0	1700	1000	500	1363	1263	1360	895
L=1.5	1450	750	500	1113	1013	1110	730
L=1.25	1450	625	625				

端部B



規格	B	B1	B2	H	H1
L=2.0					
L=1.5	1105	400	705	300	145
L=1.25					

規格	L	L1	L2	L3	L4	重量 (kg)
L=2.0	1700	1000	500	1422	1322	900
L=1.5	1450	750	500	1172	1072	734
L=1.25	1450	625	625			

自在R連続基礎

自在R連続基礎の特長

- 連続構造物としているため、衝突時の安定が確保されます。
- カーブ施工が容易に行えます。
- 地中埋設式の現場打ち連続基礎と自在R連続基礎ブロックを比較すると、型枠設置やコンクリート打設・養生に要する時間を短縮できます。

基準の改定



防護柵の設置基準



車両用防護柵標準仕様

平成16年3月に改訂

主な改定のポイント

- 景観形成に配慮した防護柵の整備
- 支柱式基礎の背面土量の算出方法
- 連続基礎の設計方法

施工例

○埋設使用



○置き式使用



参考延長一覧表

○埋設使用

街交条件	街交荷重	断面	自在R連続基礎			
			現場打 連続基礎	S型 650×600	A型 630×450	B型 400×450
A種	55 kN	断面				
計算上の必要延長			10m	20m (基礎延長は21mとなります)	29m	
B種 C種	30 kN	断面				
計算上の必要延長			10m	10m (基礎延長は11mとなります)	15m	28m

※現場状況に合わせて計算・提案させていただきますのでお問い合わせください。

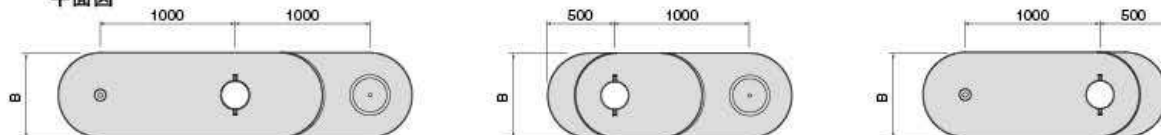
○置き式使用

街交条件	街交荷重	断面	自在R連続基礎	
			A型 630×450	B型 400×450
A種	55 kN	断面		
計算上の必要延長			26m	
B種 C種	30 kN	断面		
計算上の必要延長			14m	B種33m C種34m

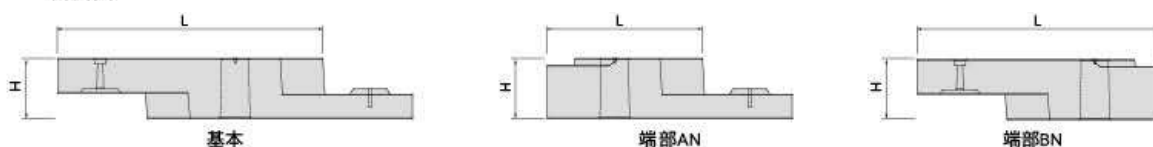
※現場状況に合わせて計算・提案させていただきますのでお問い合わせください。

単体図

平面図



側面図



呼び名		参考質量 (kg)	価 格 (円)	寸 法 (mm)		
				B	H	L
S型	基本	1690		650	600	1975
	端部A	1178				1150
	端部B	1241				1825
A型	基本	1202		630	450	1965
	端部AN	820				1150
	端部BN	883				1815
B型	基本	773		400	450	1975
	端部AN	547				1275
	端部BN	566				1700